
令和7年度
高知県若者の生活や意識についてのアンケート

報 告 書

令和7年9月
高知県

- 目次 -

I. 調査概要.....	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査の対象者等.....	1
3. 報告書の見方.....	1
II. 調査結果.....	2
1. 高校生調査.....	2
(1) 性別.....	2
(2) これまでに抱えたことのある悩み.....	3
(3) 悩みの相談先.....	5
(4) 悩みの相談に利用した SNS.....	6
(5) 相談しなかった、できなかった理由.....	7
(6) 相談機関（支援機関）の認知度.....	8
(7) 相談機関に相談しようと思えるきっかけ.....	10
(8) 相談しやすいと感じる場合.....	11
(9) 性別に関して生きづらさやもやもやを感じたこと.....	12
(10) 日々の生活の中で生きづらさを感じる.....	13
(11) 生きづらいつと感じる瞬間について.....	14
(12) 悩みを抱える女性の支援に関する意見や要望.....	17
2. 大学生等調査.....	19
(1) 性別.....	19
(2) これまでに抱えたことのある悩み.....	20
(3) 悩みの相談先.....	22
(4) 悩みの相談に利用した SNS.....	23
(5) 相談しなかった、できなかった理由.....	24
(6) 相談機関（支援機関）の認知度.....	25
(7) 相談機関に相談しようと思えるきっかけ.....	27
(8) 相談しやすいと感じる場合.....	28
(9) 性別に関して生きづらさやもやもやを感じたこと.....	29
(10) 日々の生活の中で生きづらさを感じる.....	30
(11) 生きづらいつと感じる瞬間について.....	31
(12) 悩みを抱える女性の支援に関する意見や要望.....	33

I. 調査概要

1. 調査の目的

本県では、困難な問題を抱える女性の福祉の増進及び自立に向けた施策を総合的かつ計画的に展開するとともに、女性だけでなく、男性や性的マイノリティを含むDV被害者への継続的かつ包括的な支援を一層強化するため、令和6年3月に「高知県困難な問題を抱える女性及びDV被害者への支援計画」を策定し、女性相談支援センターを中核機関として、困難な問題を抱える女性や、男性を含むDV被害者の支援に取り組んできました。

この度、支援計画の見直しにあたり、県内若年層の現状や支援のニーズを分析するため、「令和7年度高知県若者の生活や意識についてのアンケート調査」を実施し、状況を把握しました。

2. 調査の対象者等

調査対象者	①県内の高等学校等（1～3年生）に在籍する生徒 ②県内の大学等に在籍する学生
調査期間	令和7年7月2日～令和7年7月18日
調査方法	①高校生調査：紙面による調査（調査票を郵送、回収は郵送又はWEB回答） ②大学生等調査：WEB上のアンケートフォームによるアンケート調査
有効回答数	①高校生調査：7,890票 ②大学生等調査：268票
調査機関	株式会社サーベイリサーチセンター四国事務所

3. 報告書の見方

- ・ グラフ・表中の「N」はアンケートの回収数を示しています。
- ・ 比率はすべて百分率（%）で表し、小数点第2位を四捨五入して算出しています。従って、合計が100.0%にならない場合があります。
- ・ 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答の合計比率が100.0%を超える場合があります。
- ・ グラフ・表として示したもののうち、回答数が0の場合は表示を省略しています。また、選択肢の見出しを簡略化してある場合があります。

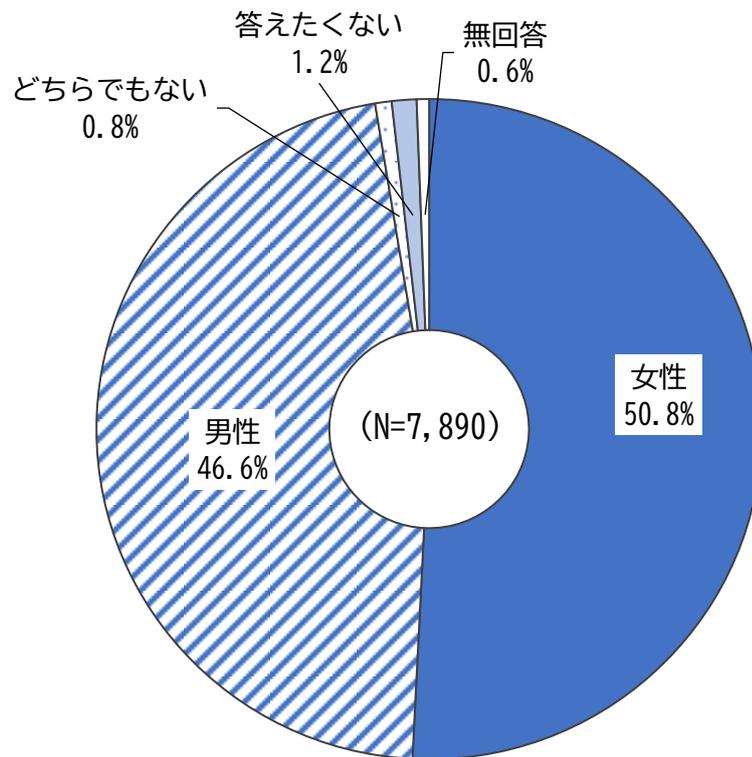
II. 調査結果

1. 高校生調査

(1) 性別

あなたの性別を教えてください。(〇はひとつだけ)

- 全体では、「女性」が 50.8%、「男性」が 46.6%、「答えたくない」が 1.2%、「どちらでもない」が 0.8%、「無回答」が 0.6%となっています。



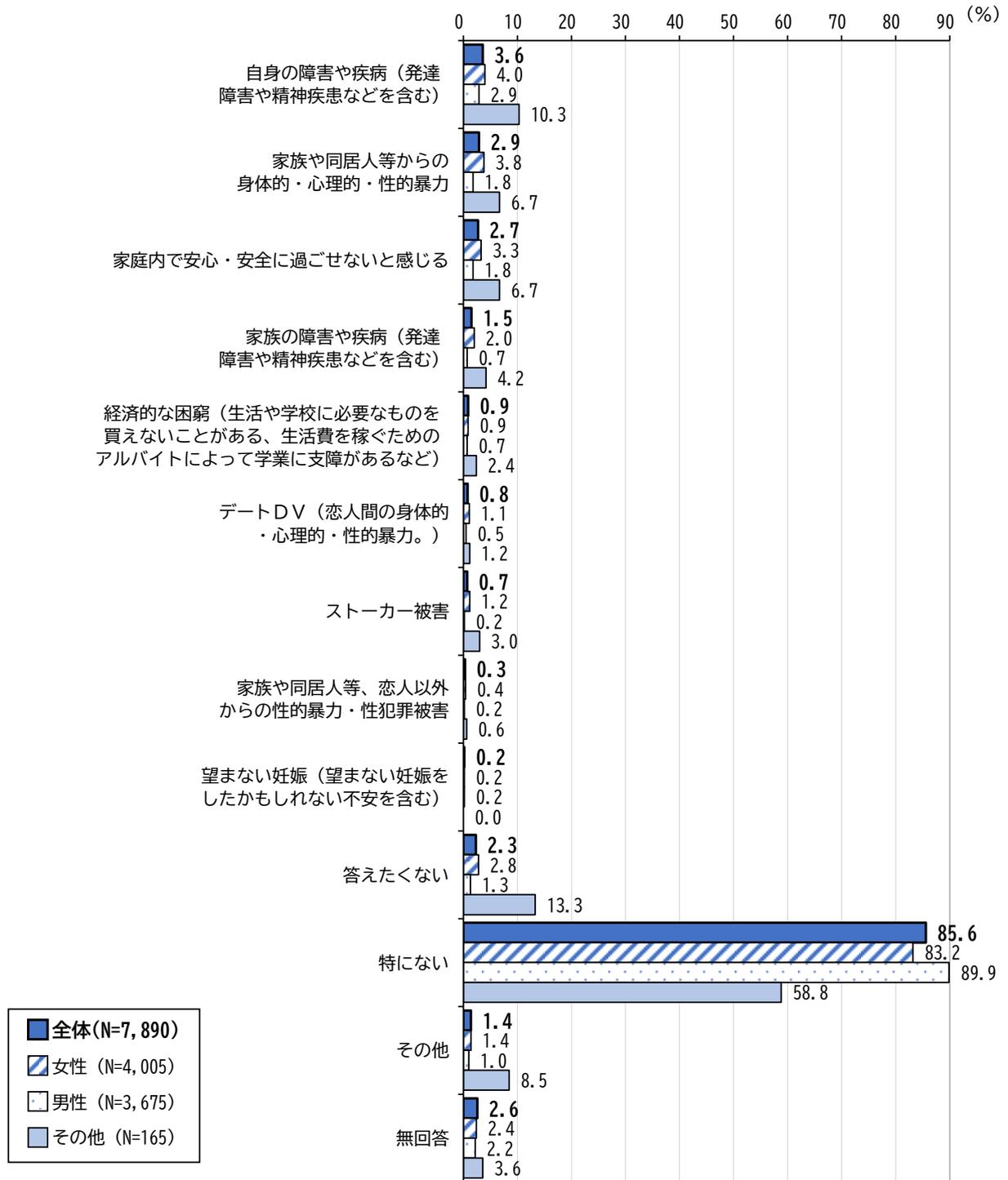
II. 調査結果（1. 高校生調査）

（2）これまでに抱えたことのある悩み

あなたがこれまでに抱えたことのある悩みはありますか。（〇はいくつでも）

- 全体では、「特にない」が 85.6%で最も多い結果となっています。一方で、抱えたことのある悩みに関しては、「自身の障害や疾病（発達障害や精神疾患などを含む）」が 3.6%で最も多く、次いで「家族や同居人等からの身体的・心理的・性的暴力」が 2.9%、「家庭内で安心・安全に過ごせないと感じる」が 2.7%となっています。
- 性別で見ると、男女とも「特にない」（女性：83.2%、男性：89.9%）が最も多く、次いで「自身の障害や疾病（発達障害や精神疾患などを含む）」（女性：4.0%、男性：2.9%）、女性は「家族や同居人等からの身体的・心理的・性的暴力」（3.8%）、男性は「家族や同居人等からの身体的・心理的・性的暴力」（1.8%）、「家庭内で安心・安全に過ごせないと感じる」（1.8%）が同率で続いています。
- 「その他」の中には、「家族との関係性」、「友人との関係性」、「自分自身の性自認や性的指向」などの回答が見られました。

II. 調査結果 (1. 高校生調査)



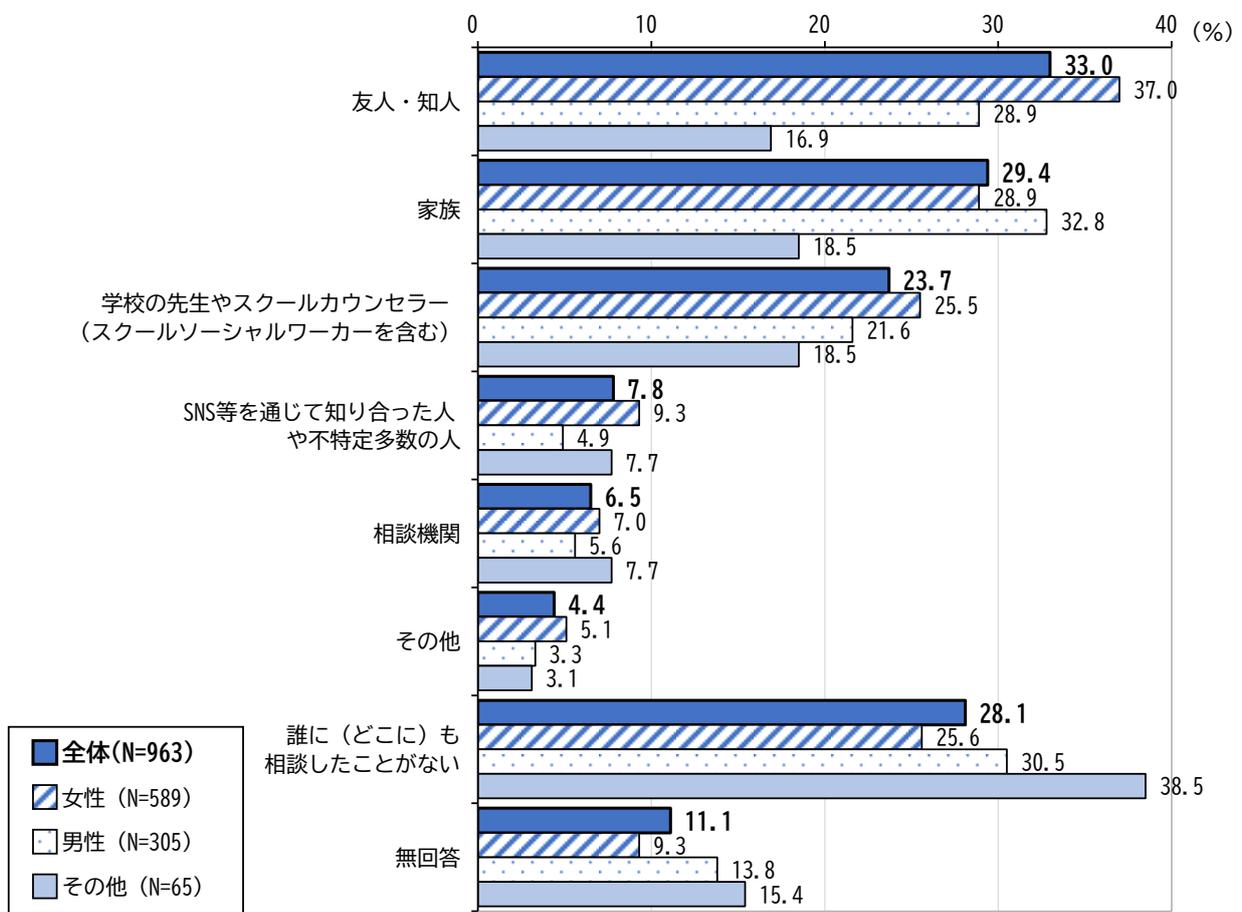
II. 調査結果（1. 高校生調査）

（3）悩みの相談先

悩みを抱えたことがあると答えた方にお尋ねします。

あなたが抱える悩みについて、誰に（どこに）相談しましたか。（〇はいくつでも）

- 全体では、「友人・知人」が33.0%で最も多く、次いで「家族」が29.4%、「誰に（どこに）も相談したことがない」が28.1%、「学校の先生やスクールカウンセラー（スクールソーシャルワーカーを含む）」が23.7%となっています。
- 性別で見ると、女性は「友人・知人」（37.0%）、男性は「家族」（32.8%）が最も多くなっています。
- 「その他」の中には、「病院」、「警察」、「恋人」、「ChatGPT」などの回答が見られました。

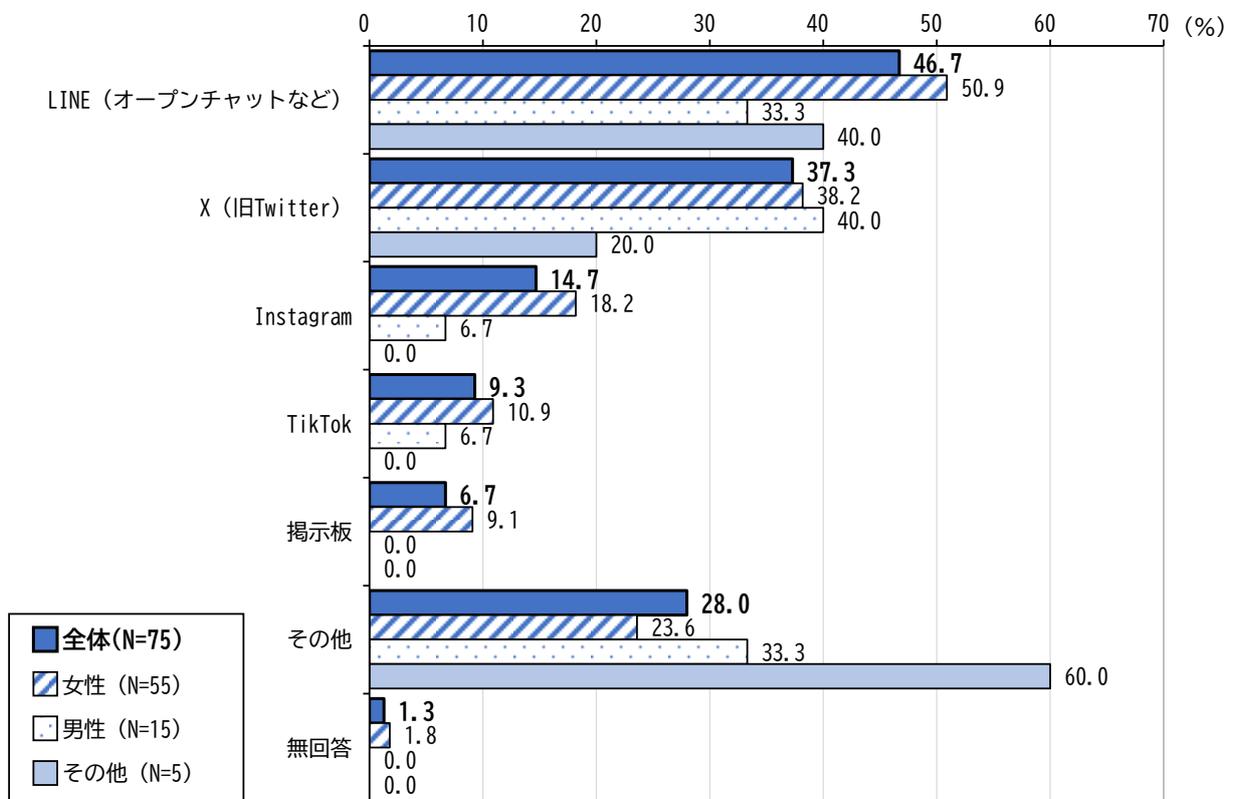


II. 調査結果（1. 高校生調査）

（4）悩みの相談に利用した SNS

悩みの相談先について「SNS等を通じて知り合った人や不特定多数の人」と答えた方にお尋ねします。
相談に利用した SNS 等は何ですか。（〇はいくつでも）

- ▶ 全体では、「LINE(オープンチャットなど)」が 46.7%で最も多く、次いで「X(旧 Twitter)」が 37.3%、「その他」が 28.0%、「Instagram」が 14.7%となっています。
- ▶ 性別で見ると、女性は「LINE(オープンチャットなど)」(50.9%)、男性は「X(旧 Twitter)」(40.0%)が最も多くなっています。
- ▶ 「その他」の中には、「Discord」などの回答が見られました。

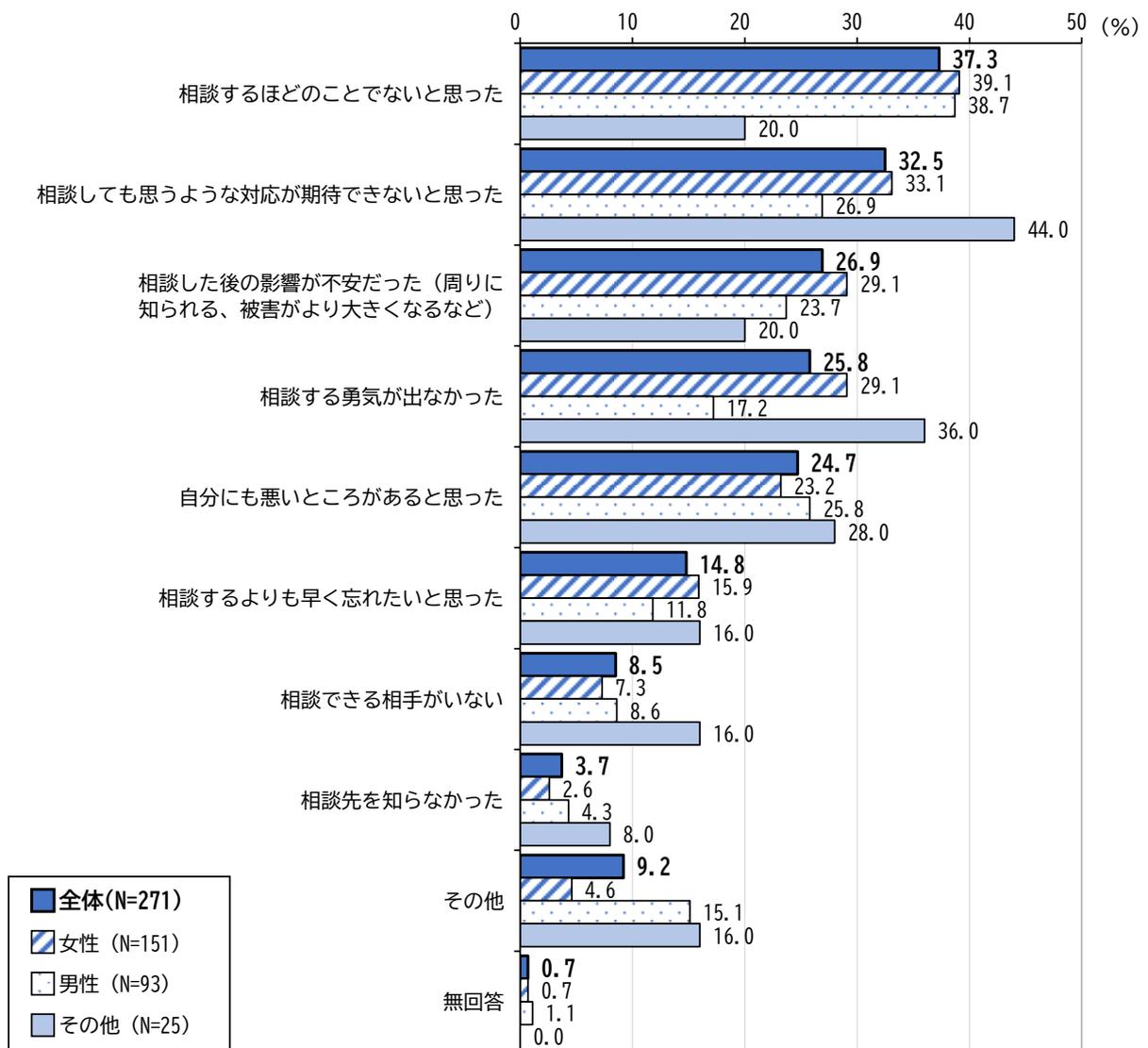


II. 調査結果（1. 高校生調査）

（5）相談しなかった、できなかった理由

悩みの相談先について「誰に（どこに）も相談したことがない」と答えた方にお尋ねします。
 相談しなかった、できなかった理由は何ですか。（〇はいくつでも）

- 全体では、「相談するほどのことでないと思った」が 37.3%で最も多く、次いで「相談しても思うような対応が期待できないと思った」が 32.5%、「相談した後の影響が不安だった（周りに知られる、被害がより大きくなるなど）」が 26.9%となっています。
- 性別で見ると、男女とも「相談するほどのことでないと思った」（女性：39.1%、男性：38.7%）が最も多く、次いで「相談しても思うような対応が期待できないと思った」（女性：33.1%、男性：26.9%）となっています。
- 「その他」の中には、「相談しても意味がないと思った」、「自分で解決できるといった」などの回答が見られました。



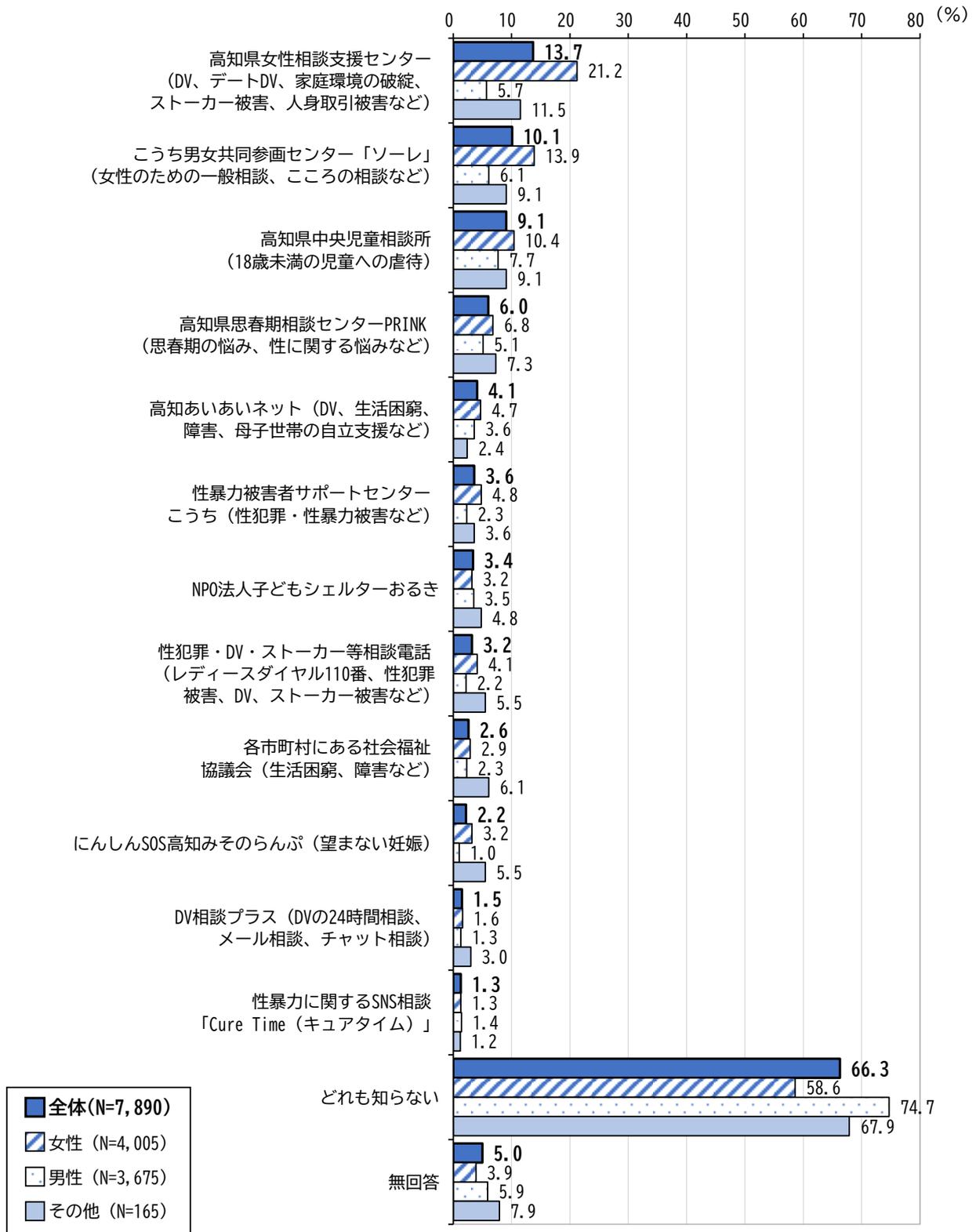
II. 調査結果（1. 高校生調査）

（6）相談機関（支援機関）の認知度

以下の相談機関（支援機関）のうち、どのような相談を受け付けているか知っているものはありますか。
（〇はいくつでも）

- 全体では、「どれも知らない」が 66.3%で最も多い結果となっています。次いで「高知県女性相談支援センター」が13.7%、「こうち男女共同参画センター「ソーレ」」が10.1%、「高知県中央児童相談所」が9.1%となっています。
- 性別で見ると、女性は「どれも知らない」(58.6%)が最も多く、次いで「高知県女性相談支援センター」(21.2%)、男性は「どれも知らない」(74.7%)が最も多く、次いで「高知県中央児童相談所」(7.7%)となっています。

II. 調査結果（1. 高校生調査）

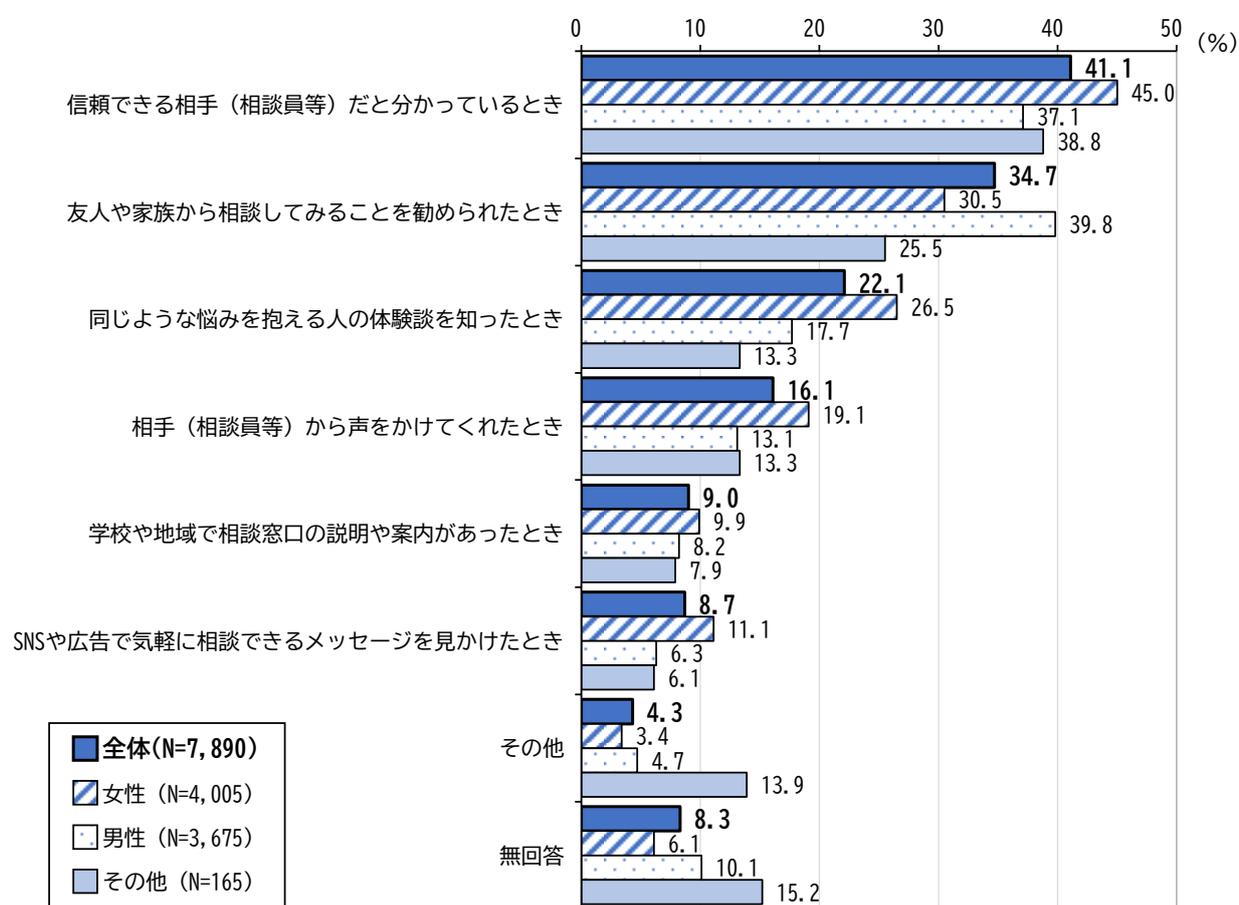


II. 調査結果（1. 高校生調査）

（7）相談機関に相談しようと思えるきっかけ

悩みがあり相談したいと思った時に、相談機関に相談しようと思えるきっかけを教えてください。
 （〇はいくつでも）

- 全体では、「信頼できる相手（相談員等）だと分かっているとき」が41.1%で最も多く、次いで「友人や家族から相談してみることを勧められたとき」が34.7%、「同じような悩みを抱える人の体験談を知ったとき」が22.1%となっています。
- 性別で見ると、女性は「信頼できる相手（相談員等）だと分かっているとき」（45.0%）、男性は「友人や家族から相談してみることを勧められたとき」（39.8%）が最も多くなっています。
- 「その他」の中には、「相談しようと思わない」、「誰にも相談できないとき」などの回答が見られました。

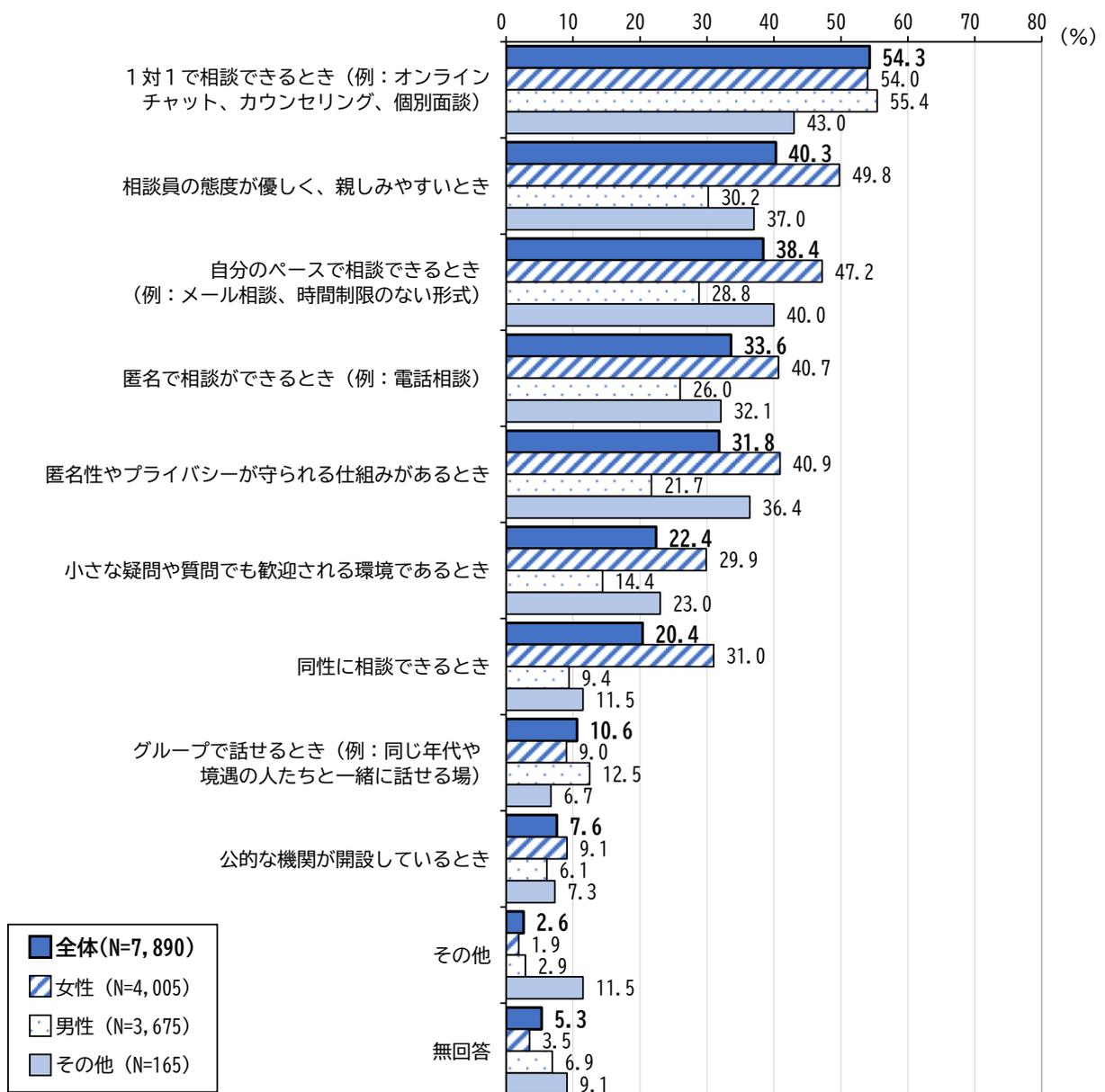


II. 調査結果（1. 高校生調査）

（8）相談しやすいと感じる場合

次のうち、あなたが相談しやすいと感じる場合を教えてください。（〇はいくつでも）

- ▶ 全体では、「1対1で相談できるとき（例：オンラインチャット、カウンセリング、個別面談）」が 54.3%で最も多く、次いで「相談員の態度が優しく、親しみやすいとき」が 40.3%、「自分のペースで相談できるとき（例：メール相談、時間制限のない形式）」が 38.4%となっています。
- ▶ 性別で見ると、男女とも「1対1で相談できるとき（例：オンラインチャット、カウンセリング、個別面談）」（女性：54.0%、男性：55.4%）が最も多く、次いで「相談員の態度が優しく、親しみやすいとき」（女性：49.8%、男性：30.2%）となっています。
- ▶ 「その他」の中には、「家族」、「友人」、「信頼できる相手であるとき」、「ChatGPT」などの回答が見られました。

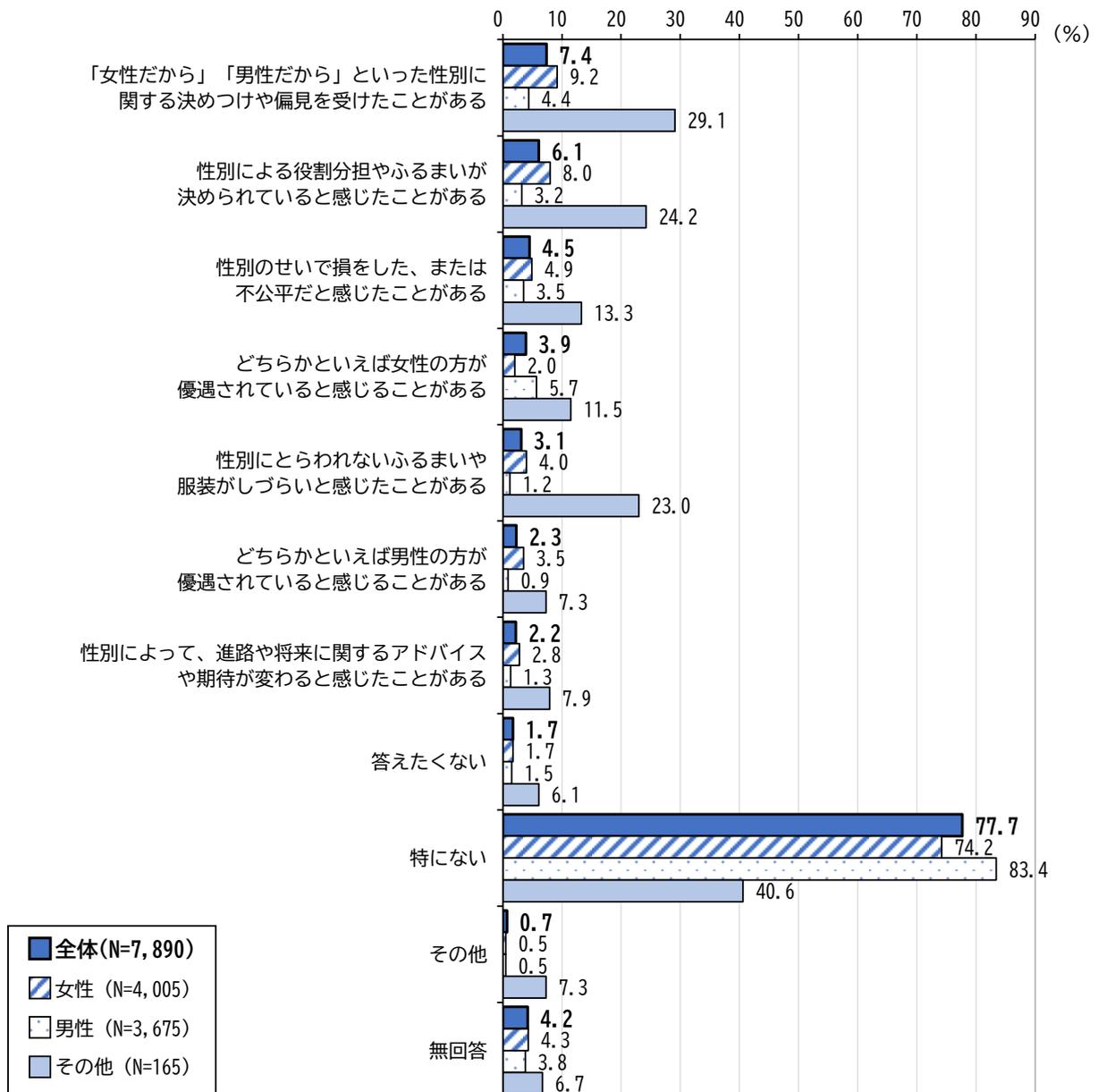


II. 調査結果（1. 高校生調査）

（9）性別に関して生きづらさやもやもやを感じたこと

あなたはこれまでに性別に関して生きづらさやもやもやを感じたことがありますか。具体的な経験があれば教えてください。（〇はいくつでも）

- 全体では、「特にない」が 77.7%で最も多い結果となっています。一方で、具体的な経験に関しては、「女性だから」「男性だから」といった性別に関する決めつけや偏見を受けたことがある」が 7.4%で最も多く、次いで「性別による役割分担やふるまいが決められていると感じたことがある」が 6.1%、「性別のせいで損をした、または不公平だと感じたことがある」が 4.5%となっています。
- 性別でみると、女性は「女性だから」「男性だから」といった性別に関する決めつけや偏見を受けたことがある」(9.2%)、男性は「どちらかといえば女性の方が優遇されていると感じることがある」(5.7%)が最も多くなっています。

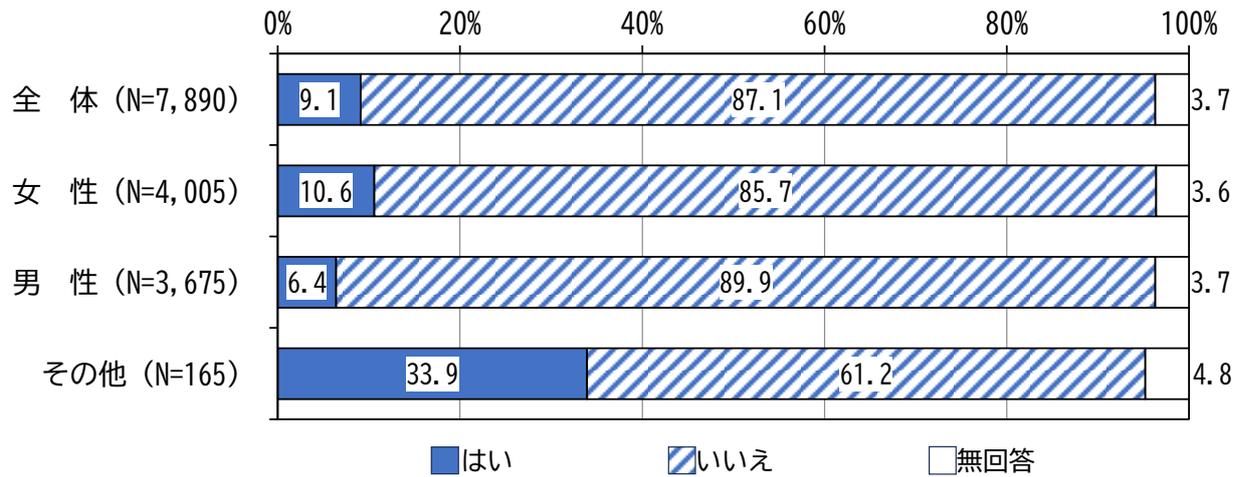


II. 調査結果（1. 高校生調査）

(10) 日々の生活の中で生きづらさを感じることに

日々の生活の中で、あなたが生きづらさを感じることはありますか。（○はひとつだけ）

- 全体では、「いいえ」が87.1%、「はい」が9.1%となっています。
- 性別で見ると、男女とも「いいえ」が8割以上を占めていますが、「その他」として集計した方の回答は「はい」が3割を超えています。



II. 調査結果（1. 高校生調査）

(11) 生きづらいつと感づる瞬間についで

「生きづらさを感じることがある」と答えた方にお尋ねします。

あなたが生きづらいつと感づる瞬間はどんな時ですか。（自由記載）

- 「(学校や部活等の)人間関係や友達との付き合い等人とのコミュニケーションがうまくいかないとき」が最も多く、次いで「(家などで)1人であるときや孤独を感じるとき」「周りとはべたり、人の目を気にしてしまうとき」「性格や容姿など自分の存在が嫌になるとき」「男性、女性という理由で優遇されていると感じたとき」「進路や将来のことを考えているとき」「自分の意見を否定されたり、相談しても聞いてもらえないとき」「物価高や経済的に困窮するとき」などとなっています。

<女性>の回答(一部抜粋)

- ・コミュニケーションがうまくいかなかったと感じたとき
- ・自分が周りと同じことができなかつたり、周りより劣っていると感づたとき
- ・学校生活を送る中で僻みや妬みなどから仲間外れがあるとき
- ・自分のことがなんとなくでも嫌になったとき
- ・人間関係がうまくいかず学校に行きづらいつとき
- ・みんなと同じようにできなくて比べられたとき
- ・自分の好みが周りに理解されないとき
- ・自分の存在意義が分からなくなつたとき
- ・家にいるときや夜に1人のとき
- ・人間関係がうまくいかず、相談したくてもできないとき
- ・将来の自分の姿を想像するとき
- ・周りの目を気にしすぎたとき
- ・頑張っているのに誰も見てくれないとき
- ・自分だけ考え方や価値観が違つて話が合わないとき
- ・わかつてほしいときや理解してほしいときに会話が成立しないとき
- ・自分の意見を否定されたとき
- ・学校でコミュニケーションができないとき
- ・友人関係とか人間関係に行き詰まつたとき
- ・常に他の人からの印象を気にしないといけないのがしんどい
- ・年齢や性別、人の性格によって偏見をうけたとき
- ・好きなものを好きと言にくい雰囲気があるとき
- ・相談できる相手がいなくときや相手に受け入れてもらえないとき
- ・人間関係が崩れて1人になったとき、話せる(相談できる)相手がいなくとき
- ・これから先のことを考えたとき(特に金銭面)
- ・周りの目を気にして生きるとき
- ・自分が女の子で、しっかりしているという理由で、兄妹の面倒を見ないといけないとき
- ・他の人ができていることが自分にはできないとき
- ・相談をしても分かつてもらえないとき
- ・自分の意見を受け入れてくれないとき

II. 調査結果（1. 高校生調査）

- ・他人と比べてしまったりして自分が劣っていると感じたとき
- ・多くの人が支持する意見が正しいとみなされるとき
- ・将来のことを考えたとき
- ・人間関係が上手くいかないとき
- ・親に進路を反対されたとき
- ・進路などについて親とぶつかり合ったとき
- ・自分の「好き」が否定されたとき

<男性>の回答(一部抜粋)

- ・学習能力の低さ、物事を上手く伝えられない言語能力の低さを感じたとき
- ・今のコミュニティに自分の性格が合わないと感じる時
- ・親の対応が冷たく、認めてもらえないときや理不尽を押し付けられたとき
- ・自分の憶測で勝手に嫌な方に考えて何もかもが嫌になったとき
- ・周りと自分を比べてしまう瞬間や自分は誰かに必要とされているか考えたとき
- ・男性だからという理由でやらされるとき
- ・クラスメイトからの誹謗中傷を受けたとき
- ・友達の話に共感できず、1人浮いていると感じたとき
- ・社会的に女性のほうが共感されやすく、少し生きづらいつと感じる場面がある
- ・友達関係が悪くなったとき
- ・学校などでの変えることのできないルールなどの縛りを受けるとき
- ・自分の将来について考えたとき
- ・親が進学や就職に関する事で細かく口出ししてくるとき
- ・他人と比較して自分には何もできないと思うとき
- ・どんなに抗っても、どんなに手を伸ばしてもそれがあまりにも自分が無力なとき
- ・理不尽を突きつけられたとき
- ・性別によって決められていることが違うとき
- ・性格や自分の存在が嫌になるとき
- ・勉強が苦手で、授業の内容が理解できずに焦ったり落ち込んだりするとき
- ・自分の存在に価値はあるのかと考えるとき
- ・先が見えず、大きな不安感と焦燥感に駆られるとき
- ・自分の感じる痛み、孤独を人に話しても、笑われたり、分かってくれたりしないとき
- ・男性が優遇されているケースは積極的に是正されているのに、女性が優遇されているケースは比較的は是正されにくいと感じたとき
- ・世の中の不平等や不条理に打ちのめされているとき
- ・家庭環境、見た目、趣味に対する偏見を感じたとき
- ・人間関係が面倒だと感じる時
- ・経済的困窮に陥っているとき
- ・余計なことまで不安に感じて、とてもストレスを感じる時
- ・自分が人より劣っていると感じる時
- ・日常生活における人間関係

II. 調査結果（1. 高校生調査）

- ・人とコミュニケーションを上手く取れないとき
- ・ルールを守る人が損をしてルールを守らない人が楽をしているとき、意味のないルールを言われたとき
- ・何をやっても上手くいかず、悩みが増え、周りからの目を気にしてしまい孤独を感じてしまうとき
- ・男の子は、こうじゃないとダメじゃないという決め付けをされたとき
- ・友達関係が面倒くさくなったとき
- ・友人からの自分にとって不本意な要望を強要されるとき
- ・男性、女性という理由で優遇されていると感じたとき
- ・友達に自分がつらいと感じる言葉を言われたとき
- ・自信が無いときや1人のとき
- ・人からの目が気になること。人のきげんを気にしてしまうこと
- ・自分だけ回りのペースに合わせることができなかつたりしたとき
- ・周りの目を気にして生活しないといけないとき、何をしてもかげ口を言われるとき
- ・人と関わるときに相手の反応をいちいち気にしてしまったりするとき
- ・自分が無力で何の役にも立たないと感じたとき

<その他>の回答(一部抜粋)

- ・自分の障がいのせいで非難されたとき
- ・他者と感覚がずれていて意見があわなかったとき
- ・自分が他の人と比べて劣っていると感じたとき
- ・他人に頼れず自分1人でどうにかして疲れがたまるとき
- ・周りとの違いにあからさまに感じたとき
- ・恋愛や性別についての話が出たとき
- ・女性だからと決めつけられるとき
- ・周りに馴染めずに孤立しているとき
- ・LGBTQについて考えさせられるとき
- ・女だからといって周りから女らしくいなさいと言われるとき
- ・顔に対する偏見がよくある
- ・性別による役割固定、社会生活等
- ・「男or女」の2択をつきつけられるとモヤモヤする。日常生活ではあまり考えないが、ふとしたときにどちらかに属さなければいけないということをつきつけられ、「その他」があればいいのと思う
- ・好みを性別で否定されたとき

II. 調査結果（1. 高校生調査）

（12）悩みを抱える女性の支援に関する意見や要望

最後に、様々な悩みを抱える女性の支援について、意見や要望があれば教えてください。（自由記載）

<女性>の回答（一部抜粋）

- ・平等と公平がそれぞれ適した場面で使われるようになってほしい（男尊女卑及び女尊男卑がない）。
- ・男女問わず、悩みを持ち苦しんでいる人に手を差し伸べられる人が近くにいるという環境になればいいと思う。
- ・生理痛がしんどいとき、生理できついときにもっと良い対応がほしい。（学校欠席OKなど）
- ・「女性だからここはこうする」とか「女の子らしく」の偏見が大人に多いのでなくした方がよいと思う。
- ・悩みを聞く人はなるべく女性（同性）の方がいいのではないかと思います。あまり知られていない相談所も多くあると思うので、広める工夫を増やすといいと思います。
- ・近年では女性だから、男性だからという決めつけを無くす動きが見られ、それは良いことだと思うが、逆にそれが強くなることによりその性ならではの悩みを言いくくならないようにすることが大切だと思います。
- ・相談機関や支援機関こんなにたくさん県内だけでもあることをもっと色々なところで発信していけばよいと思います。（SNS等）
- ・産後うつになる人が最近増えているので。生後1ヵ月からあずけられる託児所を作ってほしい。
- ・性別による差別をなくし、男性は男性、女性は女性という考え方を見直す。
- ・ちゃんと個性を理解してくれて、自分の孝えなどを否定せず尊重して寄りそってくれる友達を大切したほうがいいと思う、自分らしく自分のやりたいことをしよう。
- ・性別など関係なく、その人がもつ意見や悩みを聞き入れ、話を聞く、アドバイスを求めていたら答えるという考えをたくさんの方が持てたら良いなと思います。
- ・人によって気軽に相談しやすい条件は異なると思うからできるだけ色々な仕組みを作る必要があると思う。相談するという行動やその場所へ行くことにマイナスな印象を持っていたりする人もいると思うから日常で足をはこびやすい場所に相談所があるだけで悩みが大きくなる前に何ができるのではないかと思います。
- ・核家族や女性が働ける時代へと変化しているからそういった方への支援が豊富になると安心する人が多いと思う。少子化だからこそ大事にすべきと思う。
- ・生理痛とか女性ならではの身体不調で休んだりしたら、休みとして扱われるのがいけないと思う。

<男性>の回答（一部抜粋）

- ・違いを認め合える社会を作ってほしい。
- ・誰でも気軽に相談できる場所があるっていうことを、もっと広めたらいいと思う。
- ・女性も1人の人間であるため性別で判断するのではなくもっと公平に行くべきだと思います。
- ・妊娠や子育ての理解をもっと深めて、お金や育休などの支援を増やす。
- ・女性だけでなく、色々な人でも相談できるような公的な機関の設置。
- ・男女のどちらかが優位とかではなく、同じくらいの立場、支援をしてあげれたらいいと思う。
- ・平等は無理でも公平にはするべきだと思う。
- ・平等にするのではなく公平にする。
- ・未だ給与などで女性が不利な場面はあると思うので、支援というより、「性別関係なく、能力が認められる対過」がされる政策が出たらよいと思います。

II. 調査結果（1. 高校生調査）

- ・女性も男性も同じ立場でいられるようにするために女性の社会的立場をつくっていくことが必要である。
- ・ジェンダーバイアスをなくせるような取り組みを増やすべきだと思う。
- ・SNSなどでもっと若者に認知させること(県の支援活動を)が大事だと思います。
- ・性への理解をもって若い人にも知ってもらいたいと思う。若い人はすぐ自殺とかしてしまうほど、メンタルが繊細なので、もっと若い人が人の気持ちを考える必要があると思います。
- ・男女ともに自分らしい生きかたをしたらいい。そのためにもっと分かりやすい相談所やテレビなどでもっと広げればよい。
- ・別に支援や生きやすい世の中にするのは良いけど、それによって男女の立場に優劣をつけたり、片方の性別を支援することで片方の性別が負担を受けるような事はやめてほしい。

<その他>の回答(一部抜粋)

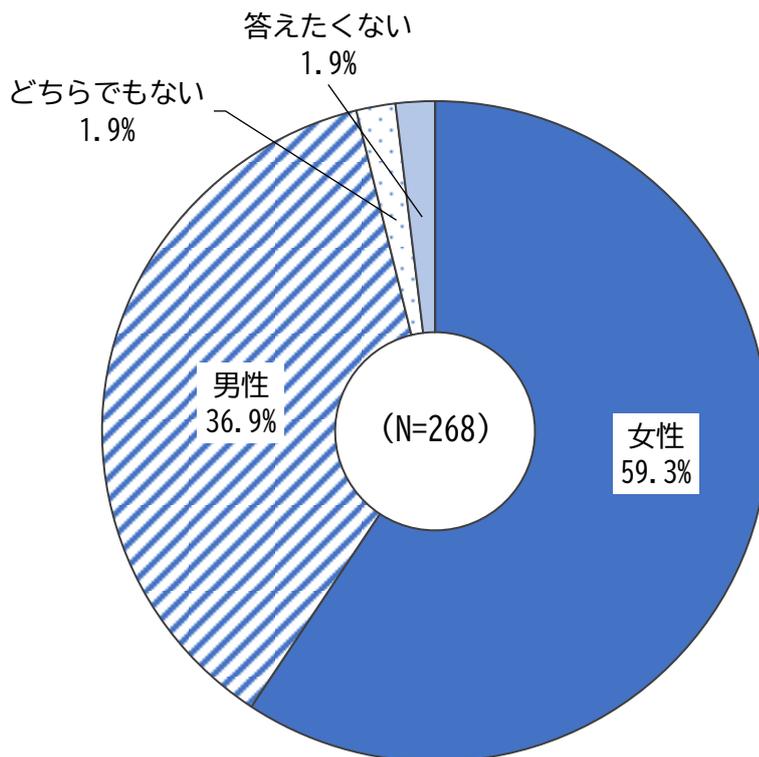
- ・もっと人の前でいろいろな悩みを話すことが普通になればいいと思う。
- ・女性に限定せず、どんな人でも悩みを打ち明けられる場所があればいいと思う。男性だから女性だからという差別的な思想をなくす。

2. 大学生等調査

（1）性別

あなたの性別を教えてください。（○はひとつだけ）

- 全体では、「女性」が 59.3%、「男性」が 36.9%、「どちらでもない」が 1.9%、「答えたくない」が 1.9%となっています。



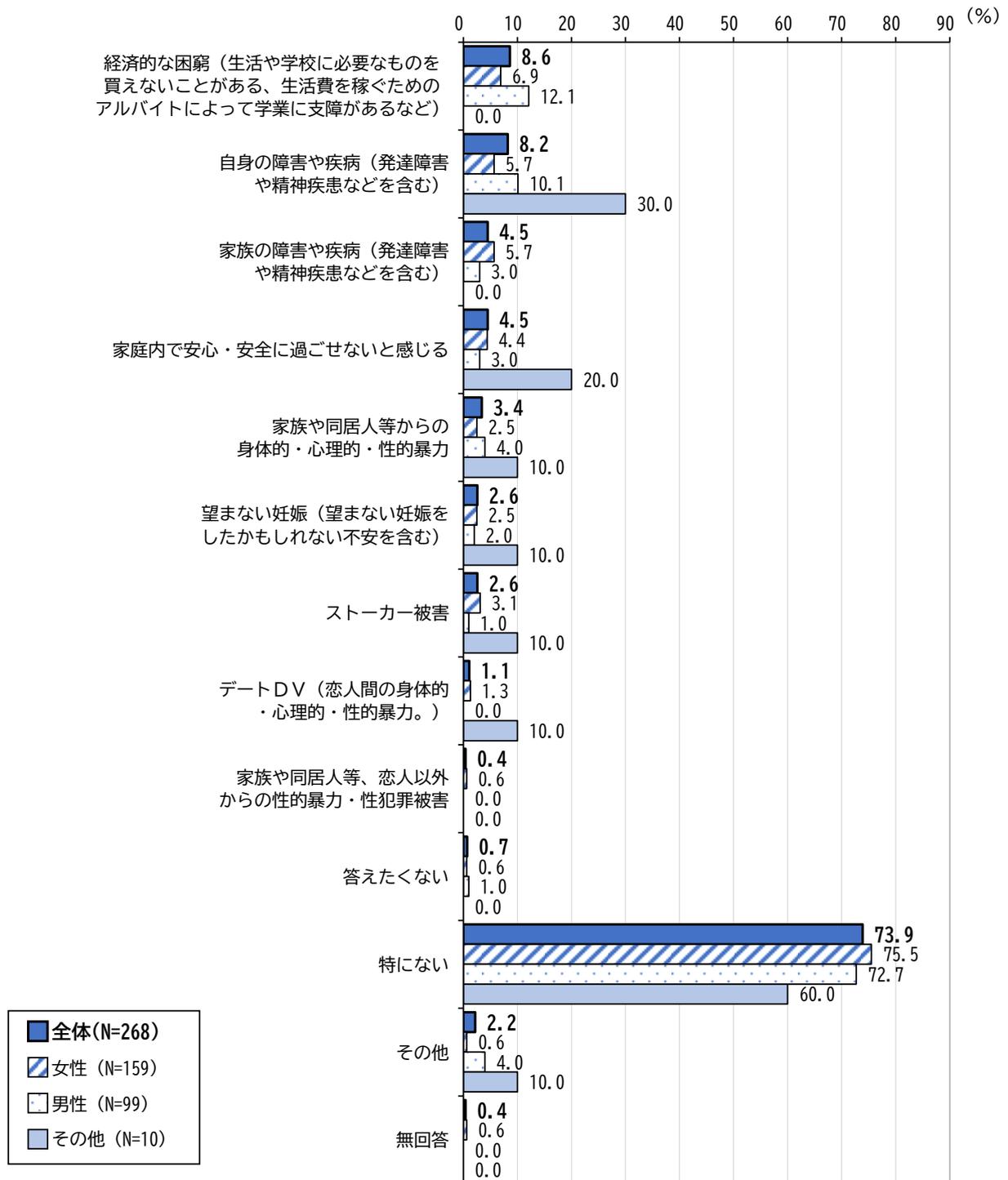
II. 調査結果（2. 大学生等調査）

（2）これまでに抱えたことのある悩み

あなたがこれまでに抱えたことのある悩みはありますか。（〇はいくつでも）

- 全体では、「特にない」が 73.9%で最も多い結果となっています。一方で、抱えたことのある悩みに関しては、「経済的な困窮(生活や学校に必要なものを買えないことがある、生活費を稼ぐためのアルバイトによって学業に支障があるなど)」が 8.6%で最も多く、次いで「自身の障害や疾病(発達障害や精神疾患などを含む)」が 8.2%、「家族の障害や疾病(発達障害や精神疾患などを含む)」、「家庭内で安心・安全に過ごせないと感じる」が同率で 4.5%となっています。
- 性別で見ると、男女とも「特にない」(女性:75.5%、男性:72.7%)が最も多く、次いで「経済的な困窮(生活や学校に必要なものを買えないことがある、生活費を稼ぐためのアルバイトによって学業に支障があるなど)」(女性:6.9%、男性:12.1%)、女性は「自身の障害や疾病(発達障害や精神疾患などを含む)」(5.7%)、「家族の障害や疾病(発達障害や精神疾患などを含む)」(5.7%)が同率で、男性は「自身の障害や疾病(発達障害や精神疾患などを含む)」(10.1%)が続いています。

II. 調査結果 (2. 大学生等調査)



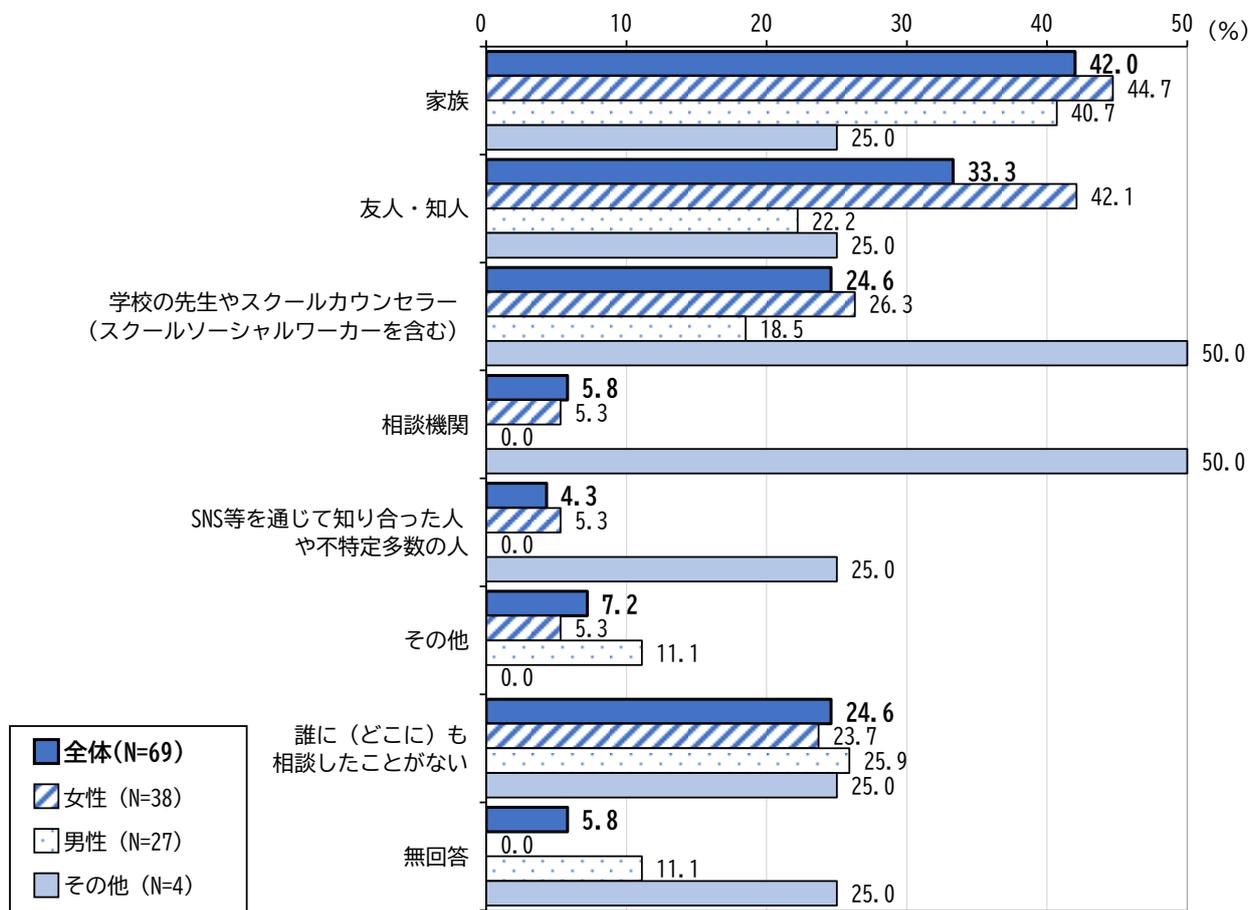
II. 調査結果（2. 大学生等調査）

（3）悩みの相談先

悩みを抱えたことがあると答えた方にお尋ねします。

あなたが抱える悩みについて、誰に（どこに）相談しましたか。（〇はいくつでも）

- ▶ 全体では、「家族」が 42.0%で最も多く、次いで「友人・知人」が 33.3%、「学校の先生やスクールカウンセラー（スクールソーシャルワーカーを含む）」、「誰に（どこに）も相談したことがない」が同率で 24.6%となっています。
- ▶ 性別で見ると、男女とも「家族」（女性：44.7%、男性：40.7%）が最も多く、次いで「友人・知人」（女性：42.1%、男性：22.2%）となっています。
- ▶ 「その他」の中には、「病院」などの回答が見られました。

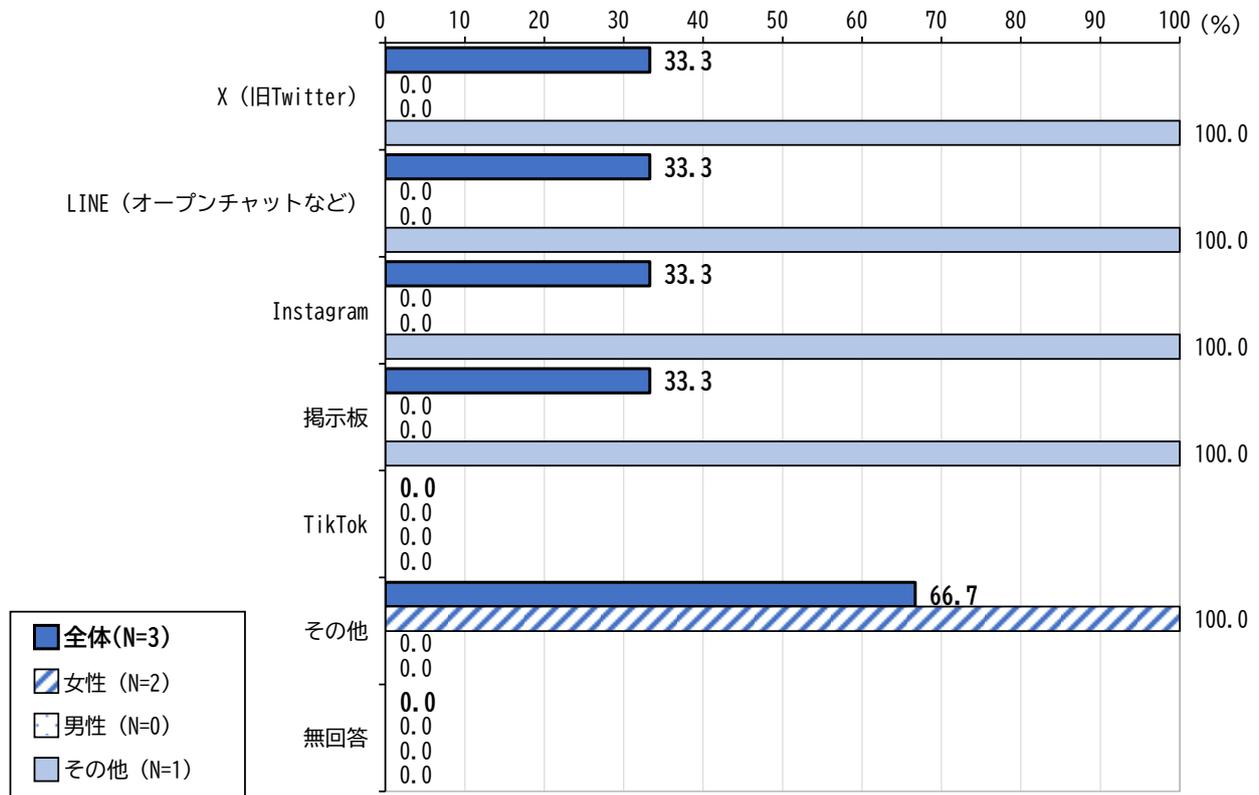


II. 調査結果（2. 大学生等調査）

（4）悩みの相談に利用した SNS

悩みの相談先について「SNS 等を通じて知り合った人や不特定多数の人」と答えた方にお尋ねします。

- 全体では、「X(旧 Twitter)」、「LINE(オープンチャットなど)」、「Instagram」、「掲示板」が同率で 33.3%となっています。

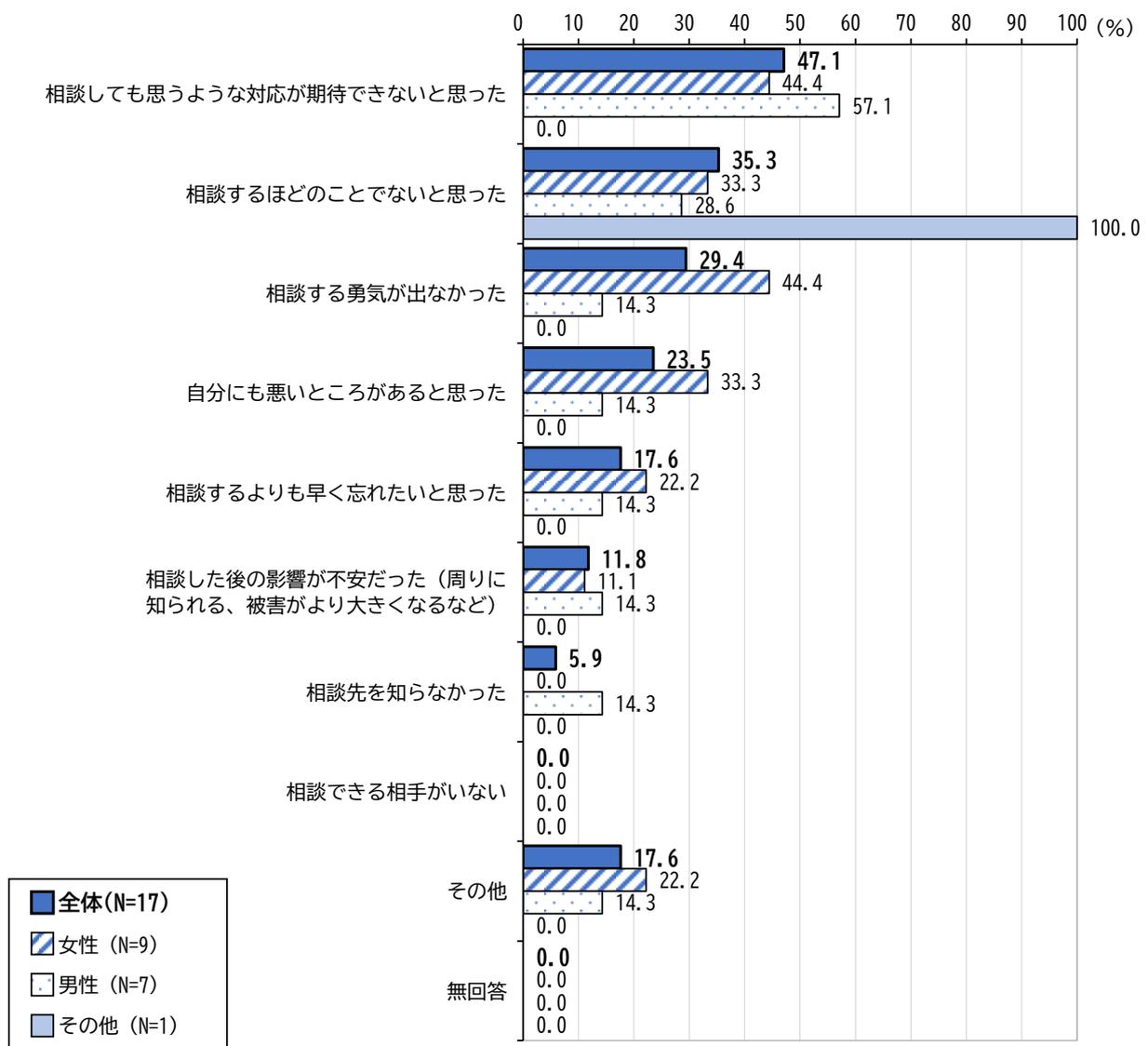


II. 調査結果（2. 大学生等調査）

（5）相談しなかった、できなかった理由

悩みの相談先について「誰に（どこに）も相談したことがない」と答えた方にお尋ねします。
 相談しなかった、できなかった理由は何ですか。（〇はいくつでも）

- 全体では、「相談しても思うような対応が期待できないと思った」が 47.1%で最も多く、次いで「相談するほどのことでないと思った」が 35.3%、「相談する勇気が出なかった」が 29.4%となっています。
- 性別でみると、女性は「相談する勇気が出なかった」(44.4%)、「相談しても思うような対応が期待できないと思った」(44.4%)が同率で最も多く、男性は「相談しても思うような対応が期待できないと思った」(57.1%)が最も多くなっています。



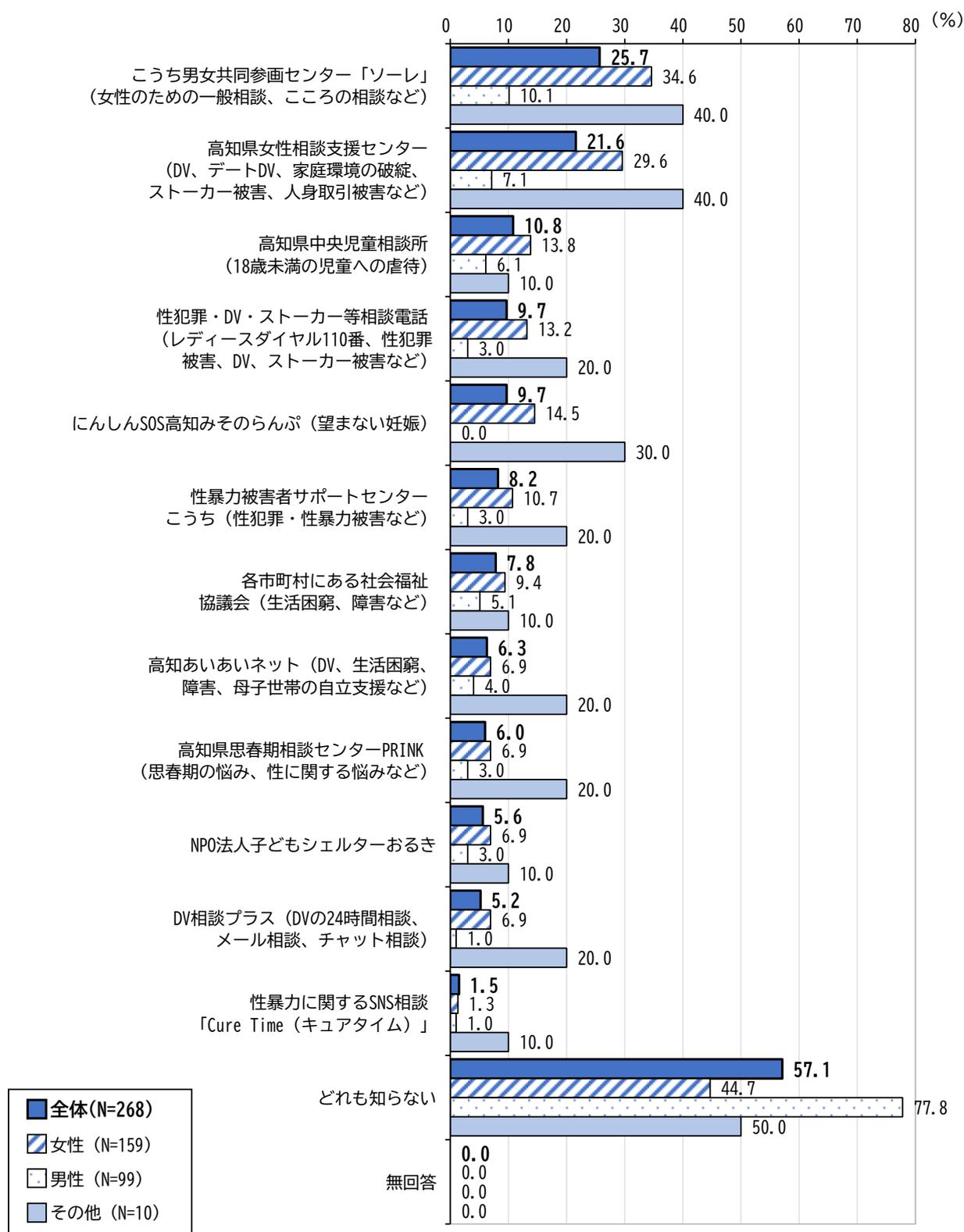
II. 調査結果（2. 大学生等調査）

（6）相談機関（支援機関）の認知度

以下の相談機関（支援機関）のうち、どのような相談を受け付けているか知っているものはありますか。
（〇はいくつでも）

- 全体では、「どれも知らない」が 57.1%で最も多く、次いで「こうち男女共同参画センター「ソーレ」」が 25.7%、「高知県女性相談支援センター」が 21.6%、「高知県中央児童相談所」が 10.8%となっています。
- 性別で見ると、男女とも「どれも知らない」（女性：44.7%、男性：77.8%）が最も多く、次いで、「こうち男女共同参画センター「ソーレ」」（女性：34.6%、男性：10.1%）、「高知県女性相談支援センター」（女性：29.6%、男性：7.1%）となっています。

II. 調査結果 (2. 大学生等調査)

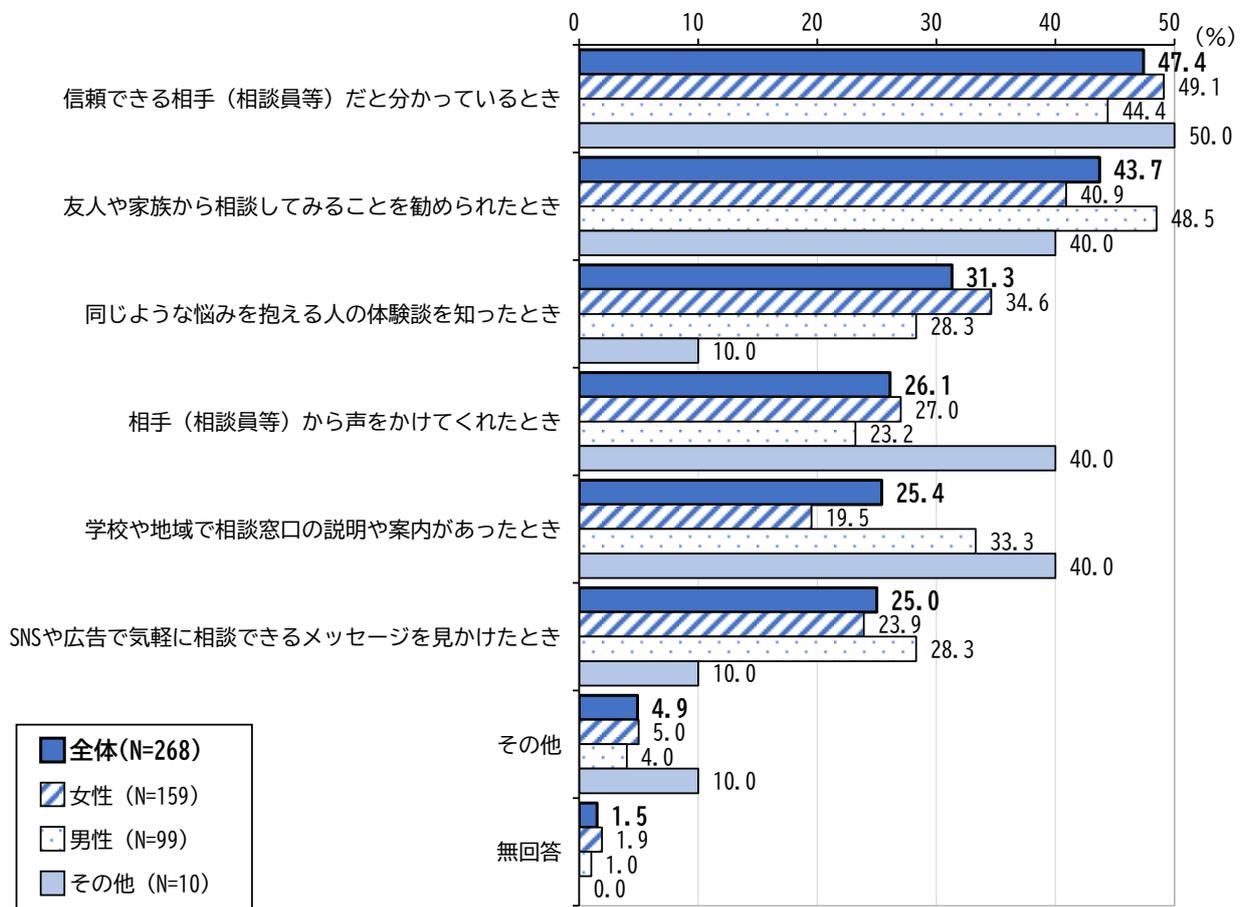


II. 調査結果（2. 大学生等調査）

（7）相談機関に相談しようと思えるきっかけ

悩みがあり相談したいと思った時に、相談機関に相談しようと思えるきっかけを教えてください。
 （〇はいくつでも）

- 全体では、「信頼できる相手（相談員等）だと分かっているとき」が 47.4%で最も多く、次いで「友人や家族から相談してみることを勧められたとき」が 43.7%、「同じような悩みを抱える人の体験談を知ったとき」が 31.3%となっています。
- 性別で見ると、女性は「信頼できる相手（相談員等）だと分かっているとき」（49.1%）、男性は「友人や家族から相談してみることを勧められたとき」（48.5%）が最も多くなっています。
- 「その他」の中には、「相談することで解決できると思ったとき」などの回答が見られました。

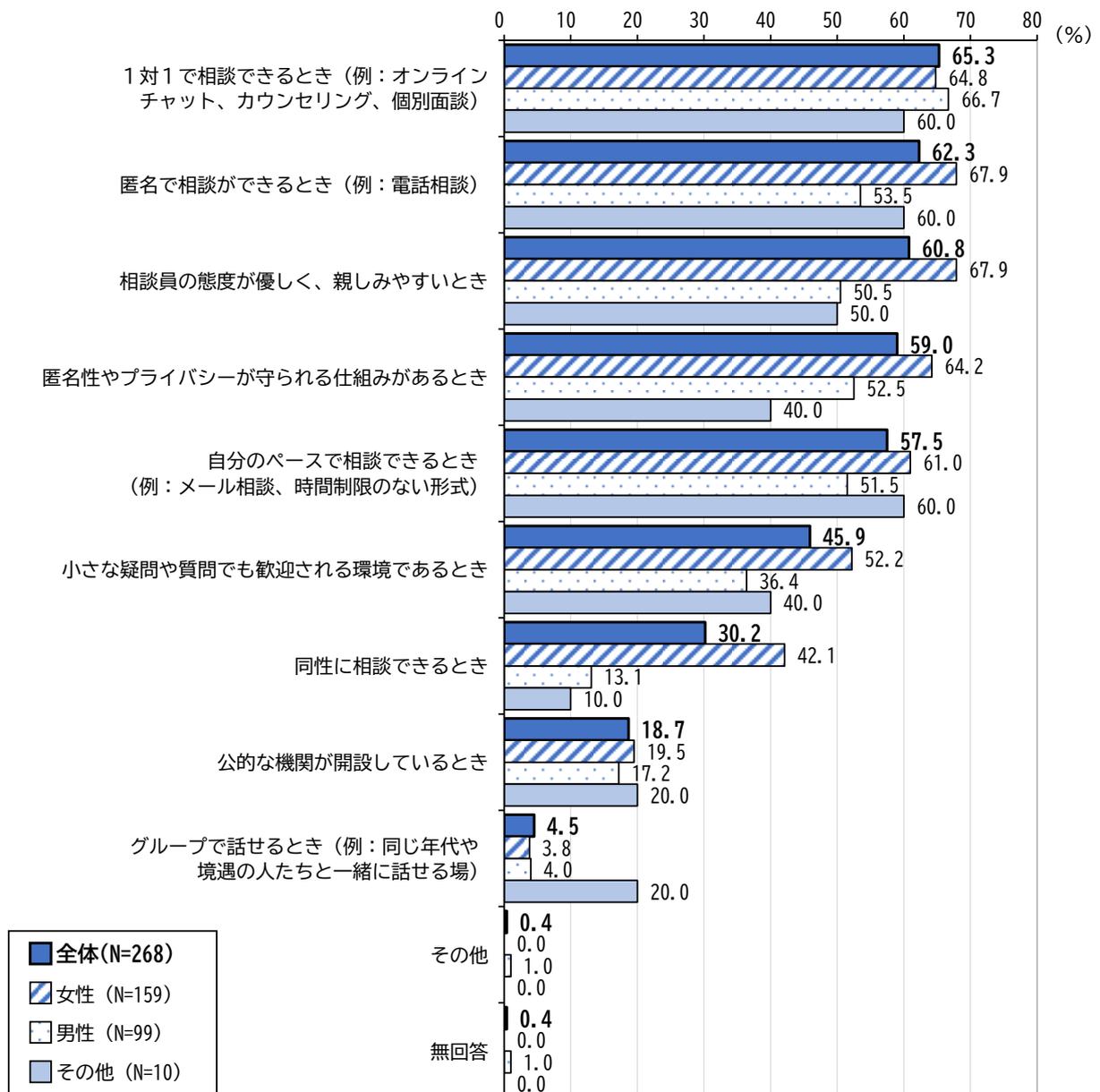


II. 調査結果（2. 大学生等調査）

（8）相談しやすいと感じる場合

次のうち、あなたが相談しやすいと感じる場合を教えてください。（〇はいくつでも）

- ▶ 全体では、「1対1で相談できるとき（例：オンラインチャット、カウンセリング、個別面談）」が 65.3%で最も多く、次いで「匿名で相談ができるとき（例：電話相談）」が 62.3%、「相談員の態度が優しく、親しみやすいとき」が60.8%となっています。
- ▶ 性別でみると、女性は「匿名で相談ができるとき（例：電話相談）」(67.9%)、「相談員の態度が優しく、親しみやすいとき」(67.9%)が同率で最も多く、男性は「1対1で相談できるとき（例：オンラインチャット、カウンセリング、個別面談）」(66.7%)が最も多くなっています。

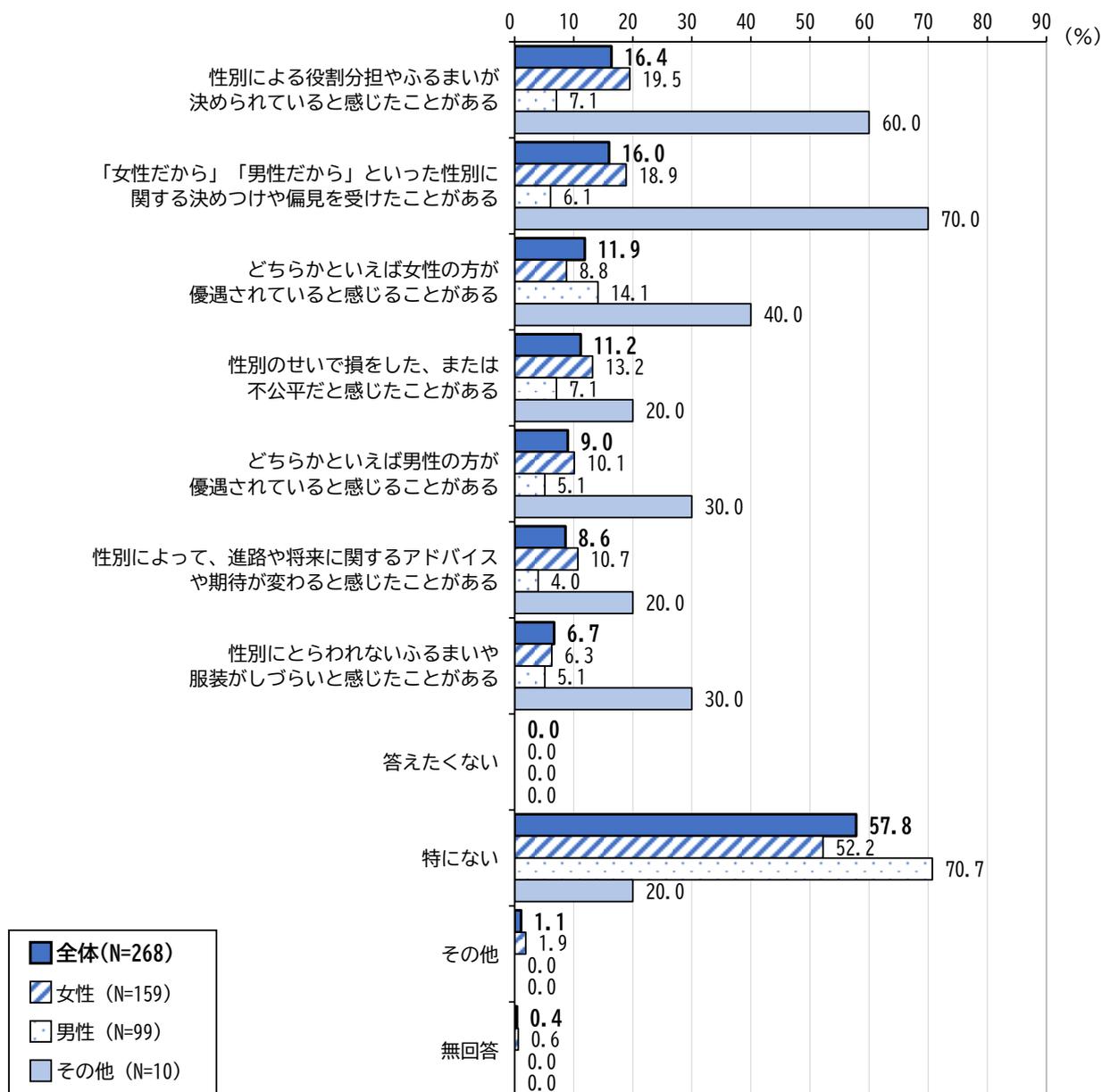


II. 調査結果（2. 大学生等調査）

（9）性別に関して生きづらさやもやもやを感じたこと

あなたはこれまでに性別に関して生きづらさやもやもやを感じたことがありますか。具体的な経験があれば教えてください。（〇はいくつでも）

- 全体では、「特にない」が57.8%で最も多く、次いで「性別による役割分担やふるまいが決められていると感じたことがある」が16.4%、「女性だから」「男性だから」といった性別に関する決めつけや偏見を受けたことがある」が16.0%、「どちらかといえば女性の方が優遇されていると感じることがある」が11.9%となっています。
- 性別でみると、女性は「特にない」(52.2%)が最も多く、次いで「性別による役割分担やふるまいが決められていると感じたことがある」(19.5%)、男性は「特にない」(70.7%)が最も多く、次いで「どちらかといえば女性の方が優遇されていると感じることがある」(14.1%)となっています。

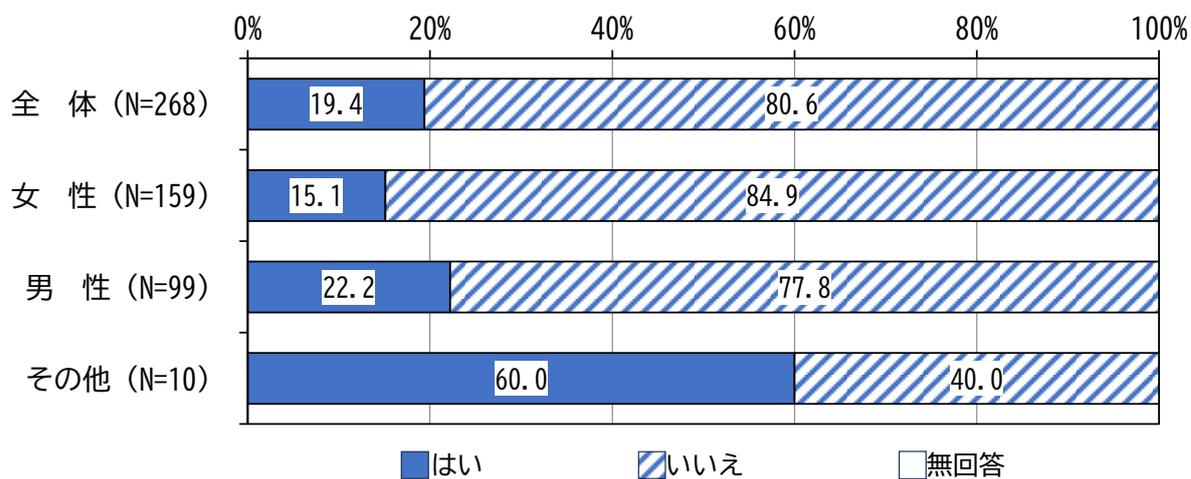


II. 調査結果（2. 大学生等調査）

(10) 日々の生活の中で生きづらさを感じること

日々の生活の中で、あなたが生きづらさを感じることはありますか。（○はひとつだけ）

- 全体では、「いいえ」が80.6%、「はい」が19.4%となっています。
- 性別でみると、女性は「いいえ」が84.9%、男性は「いいえ」が77.8%となっています。



II. 調査結果（2. 大学生等調査）

(11) 生きづらいつ感じる瞬間について

「生きづらさを感じるこつがある」と答えた方にお尋ねします。

あなたが生きづらいつ感じる瞬間はどんな時ですか。（自由記載）

- 「人間関係や友達との付き合い等人とのコミュニケーションがうまくかないとき」が最も多く、次いで「周りの人と比べて自分が劣っていると感じるとき」「物価高や経済的に困窮するとき」「障がいや持病等の理由で不利益や不便を感じるこつ」などとなっています。

<女性>の回答（一部抜粋）

- ・ほぼ常に。ふとした些細な瞬間すべて。人と話しているとき
- ・遊びなどの楽しいこつよりも勉学を優先しろと暗に言われたとき
- ・人目を気にしながら過ごす癖がついてしまっているため、自分らしさを出せないとき
- ・持病により、大多数の人と同じ行動ができず、且つその対処法もなく不利益を被ったとき
- ・完璧主義の傾向があるものの、その思考に能力が追いつかず、思うような結果にならないとき
- ・異性に好意を向けられるこつが苦手
- ・夜一人で気軽に歩けず、散歩や近場までの買い物に行けない
- ・周りの人と比べて自分が劣っていると感じるとき
- ・結婚したほうがよいという圧を家族から感じるこつ
- ・学業とアルバイトのバランスをとらないといけないけど、睡眠不足でどちらも影響されているとき
- ・人間関係がうまくいってないとき
- ・物事をうまくできなかったとき
- ・家族関係で母と祖母が上手く行っていないとき
- ・女だからと言われて行動制限されるこつ
- ・人間関係がうまくいかないとき
- ・明らかに見下されているこつ
- ・経済的な問題で、親に迷惑をかけてしまうという不安や、アルバイトによって勉強に支障がでると考えてしまい、しんどくなる
- ・生理のこつや性のこつなどタブー視されていて相談できる人がいない
- ・女性だから男性だからという偏見の根強さ
- ・姉が借金などの問題を抱えているこつを知っているが、姉に知られないように過ぎなくてはならないとき
- ・友達と上手くいかない
- ・周りの大学生は生活のお金に困ることなく過ごしているのに対して、自分は体と時間を削って自分でお金を稼いで生活をしていかないといけないこつ。またそれを周りに言うこつもできないこつ
- ・自分の気持ちを否定されたとき

<男性>の回答（一部抜粋）

- ・障害者と健常者との埋め難い違いを感じたとき
- ・個人の幸せを最大限追求しようとして、他者を顧みない現代社会の一面に晒されたとき
- ・米の値段等が高かったとき
- ・男女グループ（友人関係）で遊ぶだけで周りからの視線が痛いとき

II. 調査結果（2. 大学生等調査）

- ・周りと考え方(思考回路)が異なるために仲間づくりが難しいと感じるとき
- ・精神疾患の理解があまり得られないとき
- ・自分の居場所がわからなくなったり、存在価値がわからなくなったとき
- ・些細な事で病んでしまったりする自分に嫌になったりするとき
- ・人に迷惑をかけてしまったとき
- ・丸一日休みの日が1ヶ月以上ないとき
- ・人間関係や、人との距離感をうまく把握できないとき
- ・自分の行動が他人に強制されたとき
- ・人とのコミュニケーションや家族と関係が上手くいかないとき
- ・他人より劣っていると感じるとき
- ・SNSを見た瞬間
- ・大人になるにつれて社会の流れや情報に自分をどんどん委ねていくとき

<その他>の回答(一部抜粋)

- ・過去の嫌なことを思い出したとき
- ・障がいを理由に首にされたとき
- ・自分が周囲よりも劣っていると感じたとき
- ・目に見えない障害を持っているため、公共交通機関の優先座席に座りにくいとを感じる
- ・ジェンダーレストイレがないとき
- ・雑音に敏感に反応してしまうとき

II. 調査結果（2. 大学生等調査）

（12）悩みを抱える女性の支援に関する意見や要望

最後に、様々な悩みを抱える女性の支援について、意見や要望があれば教えてください。（自由記載）

<女性>の回答（一部抜粋）

- ・結婚しない女性、独身で生活しようと考えている女性が人生の最期まで生き抜くための困りごとについて語り合える場所があればよい。
- ・相談をしたら相手の負担になることや、知られたくない情報の気づかぬうちの漏洩、そういう人だと見られる偏見など相談をするハードルが高すぎる。モラハラ気質の人の多さや性別の偏りが多い場所だからこそ片方の性別は優遇されるなど普段から男女差別を感じる。男女が分かり合うのは難しいと思うし、偏見は根付いているが、もっと小さい頃から授業などお互いの思いなどに関心を持つキッカケとか正しい知識の普及などあればいいと思う。
- ・自分の知り合いの学生で、少し病んでいたり、感受性が高くしんどい思いをしている子が何人かいます。そんな子が少しでも苦勞が解消されるようにどうかよろしくお願いします。
- ・人それぞれの考え方や意識があることに気づくことが出来る状態では無い方がいる可能性が考えられるため、悩みを抱える女性に選択肢があることや自分の考えを大切にすることを伝える。

<男性>の回答（一部抜粋）

- ・本当に困っている人を助ける活動は当然歓迎されるべきである一方、それを悪用しようとする人間が存在することで、様々な支援活動に対する懐疑心が生まれている。その鬱々とした不公平感の解消を図らない限り、支援活動が支援される側とそうでない側の両者にとって、幸せな結果は訪れにくい。また、女性への支援という文言だけで、アレルギー的に拒否感を示す男性も少なからず存在するため、そこへのアプローチを行うことも、支援を広げていくうえで大切になるのではないかな。
- ・女性が子供を産むことに躊躇しない社会の形成を目指して欲しいと思う。ひとり親家庭でもちゃんと子供と親御さんの健康が守られるように政府や県、地方自治体がこれまでよりも積極的に援助していく必要があると考える。
- ・女性だけが存在するであろう場所のみに支援の入り口（連絡先）を公開して貰えれば他の男性からの批判が飛ばなくてよろしいのではないかな。
- ・女性への支援の強化も重要だが、子供たちへの支援をより強化してほしい。

<その他>の回答（一部抜粋）

- ・女性にしかない悩みというのは無いと思うので、男性やその他の性を持つ人に対して同様の支援が無いのは不公平に思える。

令和7年度高知県若者の生活や意識についてのアンケート報告書

令和7年9月 発行

編集・発行：高知県子ども・福祉政策部人権・男女共同参画課

〒780-8570 高知市丸ノ内 1-2-20

TEL 088-823-9651

FAX 088-823-9807